

平成16年度老人保健健康増進等事業報告書  
(高齢者の自立支援及び元気高齢者づくりの  
ための調査研究事業)

認知症(痴呆)の早期発見と早期対応が及ぼす  
認知症介護のあり方の変容に関する研究  
報 告 書

平成17年3月

社会福祉法人 浴 風 会  
認知症介護研究・研修東京センター  
(旧 高齢者痴呆介護研究・研修東京センター)

## はじめに

「認知症（痴呆）の早期発見と早期対応が及ぼす認知症介護のあり方の変容に関する研究」は厚生労働省の平成16年度老人健康増進等事業の中の高齢者の自立支援及び元気高齢者づくりのための調査研究等事業による研究費助成を得て実施したものである。また、平成16年度に社会福祉法人浴風会 認知症介護研究・研修東京センターが実施した調査研究の一つであり、平成15年度より単年度事業として開始し、以後継続的に取り組んでいる事業である。

この調査研究は単年度ごとに実施しているものの、初年度（平成15年度）の研究目的を継承するよう取り組んだ。すなわち、高齢者が自宅や施設で過ごす生活の中で、認知症がどのように発症しどのような経過をたどるのか、及び、認知症高齢者および家族への介護・看護ケアの質が、認知症の早期発見・対応にどのような影響を与えるのかという観点から調査を実施した。なお、本調査は、先行の「痴呆性高齢者の予後追跡調査」（平成12-14年度）を基盤に実施されていることを申し添えておきたい。

調査委員会は前年度と同様に、医学・疫学・介護・看護学などの多分野の研究者および実践家によって構成し、機能的な活動のため医学・疫学部会と介護・看護学部会の2部会を設けた。多職種の協働から成り立つ認知症介護の課題に取り組む体制を整えることができた。

全体委員会は、平成16年7月23日と平成17年1月17日の2回開催した。医学・疫学部会は、平成16年8月、9月、平成17年3月に部会を実施した。介護・看護学部会は平成16年9月に部会を、10月にアドバイザーを招いての打ち合わせ会議を実施した。

医学・疫学部会では、第一回の会合で、在宅高齢者の認知レベルの測定をいかに行うか、知的レベルとの関連では、生活習慣などの項目に絞って、いくつかの議論が行われた。部会の検討を経て、得られたデータの分析方法、結果の解釈を行うとともに報告書の分担執筆について検討した。

介護・看護学部会では、施設入所中のアルツハイマー型痴呆症高齢者とケアスタッフとのコミュニケーション場面の観察により効果的な言語的コミュニケーションの特性を明らかにし、施設高齢者の家族へのフォーカス・グループ・インタビューにより家族の経験を把握することを試みた。また、認知症（痴呆）高齢者への適切な対応についての示唆を得る目的で、身体拘束の廃止などで名高い特別養護老人ホーム清水坂あじさい荘（東京都北区）を訪問した。

委員各位には、本調査・研究の計画・実施・分析・まとめに際し、多大なご尽力をいただき、ここに平成16年度の報告書が完成した。委員・研究協力者各位の努力に心から敬意を表したい。本報告書が認知症（痴呆）高齢者の方々およびそのご家族、ならびに認知症（痴呆）ケアに携わる専門職の方々への一助となることを切に望むものである。

平成17年3月

「認知症（痴呆）の早期発見と早期対応が及ぼす

認知症介護のあり方の変容に関する研究」

委員長 杉下 知子

「認知症(痴呆)の早期発見と早期対応が及ぼす認知症介護のあり方の変容に関する研究」

## 委員一覧

### ◇ 委員長

杉下 知子 (三重県立看護大学 教授 / 東京大学 名誉教授)

### ◇委員

丸井 英二 (順天堂大学医学部 公衆衛生学 教授)

松村 康弘 (独立行政法人 国立健康・栄養研究所 健康栄養情報・教育研究部部長)

林 邦彦 (群馬大学医学部 保健学科医療基礎学 教授)

山路 義生 (長岡リハビリテーション病院 部長)

山本 精一郎(国立がんセンター情報研究部 予防・検診情報評価室 室長)

須貝 佑一 (社会福祉法人 浴風会浴風会病院 診療部長)

吉田 亮一 (社会福祉法人 浴風会浴風会病院 副院長)

山本 里美 (社会福祉法人 浴風会南陽園 副園長)

成原 律子 (社会福祉法人 浴風会第二南陽園 副園長)

橋谷 トミ (社会福祉法人 浴風会第三南陽園 副園長)

島村 淑子 (社会福祉法人 浴風会グループホームひまわり ホーム長)

山本 則子 (千葉大学看護学部 訪問看護学教育研究分野 助教授)

田近 松枝 (社会福祉法人 浴風会第三南陽園 医務室長)

深堀 浩樹 (三重県立看護大学 助手)

### ◇アドバイザー

山野邊 邦子(社会福祉法人 浴風会南陽園 園長)

古荘 喜一 (社会福祉法人 浴風会第二南陽園 園長)

島崎 隆太郎(社会福祉法人 浴風会第三南陽園 園長)

### ◇オブザーバー

高山 充代 (大正大学人間学研究科)

杉山 智子 (東京大学大学院医学系研究科 大学院生)

ペ スッキ (東京大学大学院医学系研究科 大学院生)

梁 春玉 (順天堂大学大学院医学系研究科 大学院生)

「認知症（痴呆）の早期発見と早期対応が及ぼす認知症介護のあり方の変容に関する研究」

## 部会構成員

### ◇医学・疫学部会

- 丸井 英二（順天堂大学医学部 公衆衛生学 教授）  
松村 康弘（独立行政法人 国立健康・栄養研究所 健康栄養情報・教育研究部部長）  
林 邦彦（群馬大学医学部 保健学科医療基礎学 教授）  
山路 義生（長岡リハビリテーション病院 部長）  
山本 精一郎（国立がんセンター情報研究部 予防・検診情報評価室 室長）  
須貝 佑一（社会福祉法人 浴風会浴風会病院 診療部長）  
吉田 亮一（社会福祉法人 浴風会浴風会病院 副院長）

### ◇介護・看護学部会

- 山本 里美（社会福祉法人 浴風会南陽園 副園長）  
成原 律子（社会福祉法人 浴風会第二南陽園 副園長）  
橋谷 トミ（社会福祉法人 浴風会第三南陽園 副園長）  
島村 淑子（社会福祉法人 浴風会グループホームひまわり ホーム長）  
杉下 知子（三重県立看護大学 教授 / 東京大学 名誉教授）  
山本 則子（千葉大学看護学部 訪問看護学教育研究分野 助教授）  
田近 松枝（社会福祉法人 浴風会第三南陽園 医務室長）  
深堀 浩樹（三重県立看護大学 助手）

## 目 次

はじめに	i
「認知症（痴呆）の早期発見と早期対応が及ぼす 認知症介護のあり方の変容に関する研究」委員一覧	ii
「認知症（痴呆）の早期発見と早期対応が及ぼす 認知症介護のあり方の変容に関する研究」部会構成員	iii
<b>I. 医学・疫学部会による調査研究</b>	
1. はじめに	1
2. 特養入所者の知的機能の3年間変化と在宅高齢者の知的機能3年変化	3
3. 認知症早期発見のための集団検診における知的機能検査と 頭部 X 線 CT 所見の活用について	9
4. 高年者健診時に実施した頭部 CT 所見の経年変化と血液検査	14
5. 在宅高齢者の生活習慣調査	23
6. 在宅高齢者の生活習慣と知的機能の関連	50
7. 生年月日と年齢を自己回答できる知的レベルと MMSE 得点との関係	137
<b>II. 介護・看護部会による調査研究</b>	
1. はじめに	140
2. 認知症高齢者を対象とした早期対応法の確立	141
3. 施設高齢者の家族介護者のアセスメント尺度の開発	164
4. 特別養護老人ホーム清水坂あじさい荘訪問報告	177
5. 平成 15 年度「痴呆の早期発見と早期対応が及ぼす痴呆介護のあり方の変容に関する研究」および先行の平成 14 年度「痴呆性高齢者の予後追跡調査」に関する原著論文・研究発表予定	191